

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 7年 5月 23日

大津市長 佐藤健司 殿

提出者

住 所 滋賀県大津市本宮1丁目4番26号

氏 名 灰孝小野田レミコン株式会社

代表取締役 山内和宏

電話番号 077-522-9166

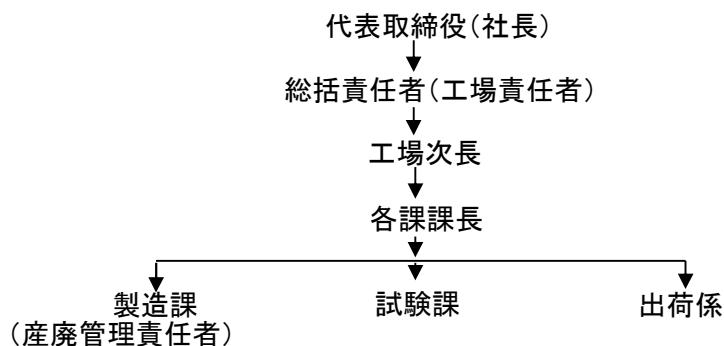
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	灰孝小野田レミコン株式会社	
事業場の所在地	滋賀県大津市本宮1丁目4番26号	
計画期間	令和 7年 4月1日から令和 8年 3月31日	
当該事業場において現に行っている事業に関する事項		
① 事業の種類	窯業・土石製品製造業 (E21)	
② 事業の規模	年間生産量 約8万m ³	
③ 従業員数	10名	
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	<p>① ミキサー車ドラム内洗浄水 → 脱水処理 → スラッジケーキ ② 余剰品残コン洗浄水</p> <p>→ 産業廃棄物中間処理場に委託</p> <p>③ 戻りコンクリート発生 → 産業廃棄物中間処理現場に搬送</p>	

(日本産業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

【前年度（6年度）実績】			
①現状	産業廃棄物の種類	汚泥	コンクリートくず
	排出量	2,940 t	5,914,99 t
(これまでに実施した取組)			① 汚泥水（スラッジ水）をプレス脱水機により、回収水は再利用。 ② 硬化ケーキを中間処理に委託。 ③ 余剰品硬化コンクリートを中間処理に委託。 ④ 戻りコンクリートをミキサー車で中間処理現場に搬送。
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	コンクリートくず
	排出量	2,000 t	7,000 t
(今後実施する予定の取組)			2025年5月にスラッジを硬化させる装置を購入した。 この装置により再生処理が困難な汚泥を減少させできるだけコンクリートくずとする。 コンクリートくずに二酸化炭素を吸着固定して再度生コンクリート用骨材とする研究を実施中でありこれが達成できれば排出量は減少する。

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) なし。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) なし。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

		【前年度（ 6 年度）実績】		
①現状	産業廃棄物の種類	汚泥	コンクリートくず	
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	
(これまでに実施した取組)		脱炭素社会の構築に向けコンクリート廃棄物に二酸化炭素を固定し、炭酸化再生骨材として再度生コンクリートを製造する方法の開発をNEDOから受託している。		
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	汚泥	コンクリートくず	
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t	
(今後実施する予定の取組)		2025年度に炭酸化再生骨材を利用した再度生コンクリートを米原市の河川に納入する予定である。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

		【前年度（ 6 年度）実績】		
①現状	産業廃棄物の種類	汚泥	コンクリートくず	
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	0 t	0 t	
(これまでに実施した取組)		コンクリート排水に含まれるスラッジを生コンクリートの原材料に使用する研究を実施している。		
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	汚泥	コンクリートくず	
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t	
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	0 t	0 t	
(今後実施する予定の取組)		コンクリート排水に含まれるスラッジを生コンクリートの原材料に使用する研究を実施する。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

		【前年度（6年度）実績】		
①現状	産業廃棄物の種類	汚泥	コンクリートくず	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0	t
(これまでに実施した取組)				
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	汚泥	コンクリートくず	
			0	t
(今後実施する予定の取組)				

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

		【前年度（6年度）実績】		
①現状	産業廃棄物の種類	汚泥	コンクリートくず	
	全処理委託量	2940 t	5,914,99 t	
			優良認定処理業者への処理委託量	2940 t
			再生利用業者への処理委託量	0 t
			認定熱回収業者への処理委託量	0 t
			認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t
(これまでに実施した取組)				

【目標】		
産業廃棄物の種類	汚泥	コンクリートくず
全処理委託量	2,000 t	7,000 t
優良認定処理業者への 処理委託量	2,000 t	7,000 t
再生利用業者への 処理委託量	0 t	0 t
認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
(今後実施する予定の取組) 自ら行う産業廃棄物の中間処理欄に記載した通りの再資源化を検討中である。		
※事務処理欄		

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。